

製品名: オツバイン-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15536**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	31kDa

抗原情報

遺伝子名	OTUB1 OTUB1; OTB1; OTU1; HSPC263; Ubiquitin thioesterase OTUB1; Deubiquitinating enzyme
別名	OTUB1; OTU domain-containing ubiquitin aldehyde-binding protein 1; Otubain-1; hOTU1; Ubiquitin-specific-processing protease OTUB1
遺伝子 ID	55611.0
SwissProt ID	Q96FW1
免疫原	オツバイン-1 由来の合成ペプチド。AA 範囲: 20-100

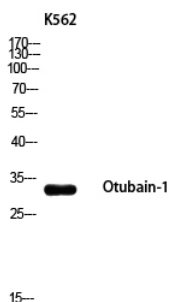
背景

OTU 脱ユビキチン化酵素、ユビキチンアルデヒド結合 1 (OTUB1) ホモサピエンス この遺伝子産物は、予測されるシステインプロテアーゼの OTU (卵巣腫瘍) スーパーファミリーのメンバーです。コードされるタンパク質は、非常に特異性の高いユビキチンイソペプチダーゼであり、分岐ポリユビキチン鎖からユビキチンを切断しますが、ユビキチン化された基質からは切断しません。OTUB1 は、別のユビキチンプロテアーゼおよび免疫系におけるサイトカイン遺伝子の転写を阻害する E3 ユビキチンリガーゼと相互作用します。OTUB1 は、ポリユビキチン鎖の成長を編集する機能を提供することにより、特定のユビキチン依存性経路で機能することが提案されています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: in vitro においてタンパク質から共役ユビキチンを除去できる加水分解酵素。そのため、タンパク質の分解を抑制することで、タンパク質代謝のレベルで重要な調節的役割を果たす可能性がある。T 細胞アレルギー (T 細胞が抗原再曝露に対して無反応となり、同族抗原にも反応しなくなる現象) の調節因子。CD4 T 細胞アレルギーの重要な誘導因子である RNF128/GRAIL との相互作用を介して作用する。アイソフォーム 1 は RNF128 を不安定化し、アレルギーを抑制する。一方、アイソフォーム 2 は RNF128 を安定化させ、アレルギーを促進する。驚くべきことに、RNF128 を介したユビキチン化を制御するものの、ポリユビキチン化された RNF128 を脱ユビキチン化しない。類似性: ペプチダーゼ C65 ファミリーに属する。類似性: 1 つの OTU ドメインを含む。サブユニット: アイソフォーム 1 とアイソフォーム 2 は RNF128 と相互作用する。アイソフォーム 1 は RNF128 および USP8 と三元複合体を形成する。アイソフォーム 1 は USP8 の C 末端 UCH 触媒ドメインと相互作用する。アイソフォーム 2 は USP8 と会合しない。組織特異性: アイソフォーム 1 は普遍的に存在する。アイソフォーム 2 は、扁桃腺、リンパ節、脾臓などのリンパ組織、および末梢血単核細胞にのみ発現する。、

研究分野

細胞生物学; タンパク質分解/ユビキチン; タンパク質分解酵素; その他のプロテアーゼ; エピジェネティクスと核シグナル伝達; ユビキチンおよびユビキチン様修飾因子; 脱ユビキチン化; DNA/RNA; DNA 損傷と修復; 相同組換え

画像データ



オツバイン-1 抗体を用いた K562 のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。